

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成28年3月3日(2016.3.3)

【公開番号】特開2016-10410(P2016-10410A)

【公開日】平成28年1月21日(2016.1.21)

【年通号数】公開・登録公報2016-005

【出願番号】特願2015-182505(P2015-182505)

【国際特許分類】

C 12 Q 1/26 (2006.01)

【F I】

C 12 Q 1/26

【手続補正書】

【提出日】平成28年1月7日(2016.1.7)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

被酸化性呈色試薬を用いたウリカーゼ法又はパーオキシダーゼ法による血漿、血清及び尿より選ばれる試料中の尿酸の測定法であり、(1)前記試料に非イオン性界面活性剤を接触させて静置又はインキュベーションし、次いで(2)前記試料と非イオン性界面活性剤の混合物にベタイン型両性界面活性剤を接触させ、ベタイン型両性界面活性剤との接触と同時又は接触後にウリカーゼ又はパーオキシダーゼとの反応及び被酸化性呈色試薬による呈色反応を行うことを特徴とする前記血漿、血清又は尿より選ばれる試料中の尿酸の測定法であって、

前記非イオン性界面活性剤は、ポリオキシエチレンポリオキシプロピレン縮合物、ポリオキシエチレンポリオキシプロピレンアルキルアミン縮合物、ポリオキシエチレンポリオキシプロピレンジアミン縮合物、ポリオキシエチレンアルキルエーテル、ポリオキシエチレンアルキルフェニルエーテル、及びポリオキシエチレン多価アルコール脂肪酸エステルから選ばれる1種又は2種以上であり、前記非イオン性界面活性剤の使用量が、血漿、血清及び尿より選ばれる試料と接触させた後の濃度が0.5~1.0w/v%となる量であり、前記ベタイン型両性界面活性剤の使用量が、前記試料と接触させた後の濃度が0.5~1.0w/v%となる量である測定法。

【請求項2】

前記血漿、血清及び尿より選ばれる試料が、血漿又は血清である請求項1記載の測定法。

【請求項3】

ベタイン型両性界面活性剤が、アルキルベタイン、アミドアルキルベタイン、スルホベタイン、及び2-アルキル-N-カルボキシメチル-N-ヒドロキシエチルイミダゾリニウムベタインから選ばれる1種又は2種以上である請求項1又は2記載の測定法。

【請求項4】

被酸化性呈色試薬が、過酸化水素と反応して呈色する1種又は2種以上の成分である請求項1~3のいずれか1項記載の測定法。

【請求項5】

前記血漿、血清及び尿より選ばれる試料中の尿酸の測定値に対するヘモグロビン及びビリルビンの影響を回避するための測定法である請求項1~4のいずれか1項に記載の測定

法。

【請求項 6】

(A) 試料と接触させた後の濃度が 0.5 ~ 1.0 w/v % となる量のポリオキシエチレンポリオキシプロピレン縮合物、ポリオキシエチレンポリオキシプロピレンアルキルアミン縮合物、ポリオキシエチレンポリオキシプロピレンジアミン縮合物、ポリオキシエチレンアルキルエーテル、ポリオキシエチレンアルキルフェニルエーテル、及びポリオキシエチレン多価アルコール脂肪酸エステルから選ばれる 1 種又は 2 種以上の非イオン性界面活性剤を含有する第 1 試薬と、(B) 試料と接触させた後の濃度が 0.5 ~ 1.0 w/v % となる量のベタイン型両性界面活性剤と、(C) ウリカーゼ又はパーオキシダーゼと、(D) 被酸化性呈色試薬を含有する第 2 試薬とを含み、請求項 1 ~ 5 のいずれか 1 項に記載される、血漿、血清及び尿より選ばれる試料中の尿酸の測定法に使用する酵素法測定試薬。

【請求項 7】

下記 (A) を含有する第 1 試薬と下記 (B)、(C) 及び (D) を含有する第 2 試薬とを含むことを特徴とし、血漿、血清及び尿より選ばれる試料に第 1 試薬を反応させ、次いで第 2 試薬を反応させて当該試料中の尿酸の測定に使用する酵素法測定試薬。

(A) ヘモグロビンの影響を回避するための有効成分としてのポリオキシエチレンポリオキシプロピレン縮合物、ポリオキシエチレンポリオキシプロピレンアルキルアミン縮合物、ポリオキシエチレンポリオキシプロピレンジアミン縮合物、ポリオキシエチレンアルキルエーテル、ポリオキシエチレンアルキルフェニルエーテル、及びポリオキシエチレン多価アルコール脂肪酸エステルから選ばれる 1 種又は 2 種以上の非イオン性界面活性剤 試料と接触させた後の濃度が 0.5 ~ 1.0 w/v % となる量

(B) ビリルビンの影響を回避するための有効成分としてのベタイン型両性界面活性剤 前記試料と接触させた後の濃度が 0.5 ~ 1.0 w/v % となる量

(C) ウリカーゼ又はパーオキシダーゼ

(D) 被酸化性呈色試薬